

平成24年度 林業専用道技術者研修(九州ブロック第2回)

場 所: 熊本県八代市 八代グランドホテル

期 間: 平成24年9月24日～26日 3日間

参加者: 設計コンサル及び建設業35名、森林組合連合会2名 計37名

○開講に当たり、九州森林管理局の熊本南部森林管理署の石神署長から、「路網整備の推進は森林・林業再生の大きな柱の一つとされています。

特に、路網の設計・作設を適切に行える技術者が必要であり、そうした技術者の人材育成と確保が重要となっております。

この研修で習得されたことを、現場で活用され、林業専用道の普及・推進の一翼を担っていただきたい。」との挨拶がありました。



【1日目】

1. 講義

研修の最初は、九州森林管理局の吉田講師より「新たな路網の整備について」として森林・林業再生プランの概要のほか、路網整備の考え方や林業専用道作設指針の内容を中心として、講義が行われました。



2. 現地研修の準備

現地研修の準備として、

- ①既設の作業道を林業専用道として開設する場合の見直すべき点
 - ②新たに林業専用道を開設する場合の線形の検討
- を設計図書や原図、写真を用いての検討を6班に分かれて行いました。

(各班での検討状況)



1班



2班



3班



4班



5班



6班

【2日目】

現地研修

(1) 既設作業道の「1444作業道」を踏査して、林業専用道として新設する場合の改善点等の検討を行いました。

① 線形の検討



(切土高を抑えられないか、線形について検討)



(森林作業道の接続位置や搬出土場について検討)

② 工種・工法の検討



(沢部の洗越工や表面排水の横断溝では、施工位置や工法などの検討)

③ 既設作業道での研修生からの主な質問

- 起点～100mの勾配は12%であるため起点位置を上へ上げたほうがよい。
- 切高2m以下は直切りであるが、小崩土もあり少し緩やかにした方がよいのではないかと。
- 全体的に路面の排水処理が少ないのではないかと。
- 一部区間で波形勾配を採用すべきではないかと。
- 切高が高い所は川手側へ移動し切高を抑える必要があるのではないかと。 等



(2)完成している林業専用道「庵ノ山1447林道」を踏査して、線形及び設計上の留意点等を検討しました。
また、講師から新設ルートの選定上のポイントの説明や森林施業の概要説明が行われました。

① 線形の検討



(傾斜を確認して通過ポイントの確認)



(森林作業道の接続箇所等を検討)



(切土高の通過ポイントの回避を検討)

②排水処理の検討



(沢部の排水処理について検討)

③ 1447林道での研修生からの主な質問

- 起点、町道とのすり付け部分の切土法面は何らかの保護が必要ではないか。
- 木柵工を設置する基準は何か。
- 簡易横断工の流末処理は積極的に縦水路を用いた方が良いのではないか。
- 波形勾配を設置する判断が難しい。
- 切土は土質だけでなく地質によっても使い分ける必要があるのではないか。 等



【3日目】

1. 現地研修の取りまとめと発表

(1)1日目の図上検討と2日目の現地踏査の結果をもとに最終路線を取りまとめ、各班発表を行いました。

① 各班での最終取りまとめ



② 各班の発表

図上で検討した線形と現地踏査により見直した線形について、修正した点や通過ポイントの説明が行われました。図上の検討と現地踏査によって、各班、より地形のよい箇所を通過する線形となり、コスト面や森林施業など総合的に検討した発表となりました。



③ 各班の発表に対する質問

研修生から、各班の発表に対して起点、通過地点、終点の考え方や森林作業道の接続等についての質問が出されました。



2. 設計の振り返り

森林技術総合コンサルタントの松崎講師により、研修の振り返りとして林業専用道の設計のポイントなどについて講義を受けました。

また、森林テクニクス熊本支店の辻本講師より、洗越工の設計上の考え方について説明がありました。



3. 総括

研修を振り返り各講師より、

1. 経済性や耐久性、利便性等、総合的な検討
2. 現地踏査の重要性
3. 互いに説明できる努力を

等の総括がありました。

研修生の皆さん

